

教員の受賞・研究成果

本学Webサイトに掲載された記事を中心に紹介します。<2023年7月～2023年10月> 教員の身分は、記事掲載時の情報です。

法学部教授 磯崎初仁 自治体学会研究論文賞を受賞

法学部教授磯崎初仁が、自治体学会(阿部昌樹理事長)の2023年度「研究論文賞」を受賞し、8月25日に開催された同学会の川崎大会で表彰されました。

同教授が刊行した『地方分権と条例一開発規制からコロナ対策まで』(第一法規、2023年)に対して授与されたもので、この賞は、「地域や自治体の活動に関する研究として顕著な貢献があると認められる、近年発表された自治体学会会員による著作または研究論文」に贈られるものです。



表彰式の様子。磯崎教授(右) 同学会・青山崇副理事長(左)

商学部教授 寺本高 2023 Global Marketing Conference 「Best Conference Track Paper Award」を受賞

商学部教授(国際マーケティング学科)寺本高の共著論文「Impact of Retailers' Goal-directed Motivational Promotions on Customers' participation」(邦題:小売業者の目標指向型動機づけプロモーションが顧客の参加に与える影響)が、2023 Global Marketing Conference 「Best Conference Track Paper Award」を受賞しました。



商学部特任教授 行木陽子 一般社団法人 技術同友会の「女性技術者育成功労賞」を受賞

一般社団法人技術同友会では、ダイバーシティ推進委員会活動の一環として、女性技術者(含む研究者)育成において顕著な成果を上げた個人の功績をたたえるため、女性技術者育成功労賞の表彰を2014年から実施しています。今回の受賞は長きに渡り続けてきた女性技術者育成の活動が認められた結果となります。

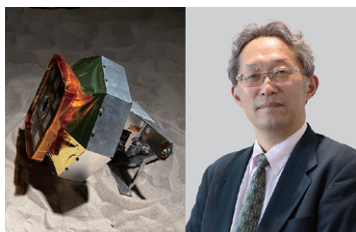


2023年8月10日に行われた授賞式の様子(右の写真:行木特任教授と加藤副学長)

理工学部教授 國井康晴 開発した天体観測機「LEV-1」を月に向かうH-IIAロケットに搭載【2023/9/7 打ち上げ成功】

理工学部教授國井康晴が、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)と共同開発した月探査小型ローバ「Lunar Excursion Vehicle-1 (LEV-1)」が、2023年9月7日にH-IIAロケットにて月に向けて打ち上げられました。

「LEV-1」は、國井康晴が実施したJAXA探査イノベーションハブでの研究課題ならびに、現在、プロジェクトマネージャ(PM)を務める内閣府の「ムーンショット型研究開発事業」における研究開発課題において、将来的な月面洞窟探査を目指している小型跳躍移動ロボットREDシリーズと同時期に研究開発が行われ、将来的な小型ロボットおよび跳躍移動を用いた探査技術実証の意味を持ちます。



天体観測用小型ローバ「LEV-1」と國井教授

理工学部教授 田口善弘 疾患関連遺伝子群における類似した特徴の抽出と検出に成功

理工学部教授田口善弘とIMMの研究チームは、田口善弘が開発した「データ駆動型」の解析方法によって、患者群と非患者群に分類されていない対象者の3層オミックスデータ(遺伝子発現プロファイル、DNAメチル化プロファイル、塩基多型(SNP)プロファイル)から類似した特徴を抽出することに成功しました。さらに、これらのパターンに同期して変動している遺伝子群を特定したところ、さまざまな疾患関連遺伝子を抽出できることを明らかにしました。この研究成果は、今後、追跡調査のデータを利用し、抽出した遺伝子群について発症者のデータとの比較を行うことによって、疾患発症を予測することにもつながるものと期待されます。

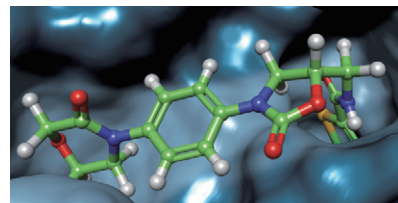
※ データ駆動型:通常の機械学習やデータサイエンスでは教師あり学習や強化学習を用いてある目的に従ってモデルをトレーニング(学習)させるが、データ駆動型の研究では最初になんらかの目的を置くのではなく、まず初めにデータを解析し、その結果を見てデータの中で何が起きているかを観察することで結果を出していく。このような研究方法をデータ駆動型の研究という。



理工学部応用化学科助教 黒木菜保子 「新化学技術研究奨励賞」を受賞

創薬分野において、薬とターゲットタンパク質の関係は、鍵と鍵穴として例えられます。しかし、薬効の予測を目的として、生体環境下で生じる分子間相互作用を、その場観察することは困難です。黒木菜保子(理論化学研究室・森寛敏教授主宰)は、「大規模分子=相互作用した小規模フラグメント分子の集合体」と考えることで、大規模分子の第一原理分子シミュレーション法の開発を実施し、新薬設計に関する分子間相互作用を物理化学起源に遡って解明する研究を行っています。

この度、黒木菜保子を実施している当該研究のこれまでの成果と今後の展開可能性が評価され新化学技術推進協会の「新化学技術奨励賞」が授与されました。



文学部哲学専攻兼任講師 高田宗平 第4回「岩瀬弥助記念書物文化賞」を受賞

この賞は岩瀬弥助の高邁な志を末永く継承するために、書物文化についてのユニークな研究や功績のあった方を5年ごとに奨励・顕彰し、書物のもつ、世を越えた情報伝達という機能にかかわるような研究論文、編著書、その他の事業に贈られます。2023年10月29日に授賞式と講演会が行われました。

国際情報学部教授 角田篤泰 JICA研修でインドネシア政府の方々に立法DXの研修を実施

JICA東京センターにおいて、国際情報学部教授角田篤泰が法務省法務総合研究所国際協力部によるインドネシア法整備支援第16回本邦研修の講師を担当し、インドネシア政府の方々に「法制執務のデジタル化」と題して講義を行いました。この講義では立法DXに関する歴史、国際的動向、技術的課題、および日本における取り組みについて紹介されました。

